

<2019年度>

授業要項

科目	人間関係論 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	戸谷 佳子	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	新・介護福祉士養成講座 1人間の理解				
参考書	適宜プリント				
成績評価	授業内のレポート・テスト、全て総合して60%で合格				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	自己理解・他者理解、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける				
留意点	自主的に学ぶようにお願いします				
授業外に必要な学習内容	教科書の復習をしてください				
授業内容	介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び、豊かな人間性をつくる。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	資料
2	人間を理解する	教科書
3	人間の尊厳の意義	教科書
4	自立と自律	教科書
5	人間の尊厳と自立	教科書
6	尊厳と自立の思想	教科書
7	尊厳と自立をめぐる歴史的経緯	教科書
8	尊厳と自立をめぐる諸規定	教科書
9	生活の幸せとは	教科書
10	生活を通して人間の尊厳と自立を考える	教科書
11	生きる勇気の回復	教科書
12	介護における権利擁護と人権尊重	教科書
13	介護における自立支援	教科書
14	介護における尊厳保持と自立支援の実践	教科書
15	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科 目	人間関係論Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	戸谷 佳子	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解				
参考書	適宜プリント				
成績評価	授業内のレポートとテスト、総合して60%以上で合格				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける				
留意点	積極的にワークにも参加してください				
授業外に必要な学習内容	行ったワークなどについて自分自身についてふりかえること				
授業内容	介護を必要とする人及び家族に対するコミュニケーションをはじめ、チームワークでの基礎的な知識・技能を身につける				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	資料
2	個々人の認知世界	教科書
3	ストレスについて考える	教科書
4	人間関係のさまざまな広がり	教科書
5	発達と人間関係	教科書
6	集団力学からみた人間関係	教科書
7	介護支援と対人関係	教科書
8	コミュニケーションとは	教科書
9	コミュニケーションの目的と方法	教科書
10	コミュニケーション技法を知る	教科書
11	コミュニケーション技法と実際	教科書
12	コミュニケーション技法を活かす	教科書
13	利用者のとらえ方	教科書
14	まとめ	教科書
15	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	社会福祉と社会保障	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	小林 博明	領域	人間と社会	実務経験	社会福祉協議会
教科書	新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解(中央法規)				
参考書	はじめての社会保障(有斐閣)				
成績評価	定期試験(60%) 提出物・出席率・授業態度(40%)				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	社会福祉についてさまざまな視点から自分の考えを持ち、社会の出来事に関心を持つことができる。 社会保障の役割や意義を理解する。				
留意点	学生自ら主体性を持ち、学びを深めることができる。				
授業外に必要な学習内容	新聞等から、福祉に関する出来事や課題に関心をもって把握していること。 自分の生活や実習等を通して、実際の取り組み、福祉制度のあり方について考える機会を持つこと。				
授業内容	福祉専門職員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ① 一人ひとりの生活を理解し、その生活を取り巻く環境や福祉の体系を理解する。 ② 私たちの生活に欠かせない社会保障について理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	シラバスの理解 オリエンテーション生活と福祉	教科書・資料
2	家族とは①家族の概念、構造、機能、役割、変容、多様化	教科書・資料
3	家族とは② 高齢者と家族	教科書・資料
4	地域を知る① 地域とは 地域コミュニティの概念	教科書・資料
5	地域を知る② 都市化、過疎化と地域社会	教科書・資料
6	現代におけるライフスタイルの変化、社会構造の変容	教科書・資料
7	生活支援と福祉	教科書・資料
8	地域福祉の推進、協働による新しい福祉	教科書・資料
9	社会保障の基本的な考え方	教科書・資料
10	日本の社会保障制度の発達	教科書・資料
11	日本の社会保障制度のしくみ ①	教科書・資料
12	日本の社会保障制度のしくみ ②	教科書・資料
13	重点項目のふりかえり、後期試験の解説	教科書・資料
14	後期試験	
15	総まとめ	教科書・資料

<2019年度>

授業要項

科目	アクティビティ・ケア (レクリエーション)	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	依田 淑子	領域	人間と社会	実務経験	体育指導センター
教科書	その都度資料を用意する				
参考書	レクリエーション教本				
成績評価	支援実習1～3の発表内容により評価する				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	レクリエーションの発案と実践				
留意点	現場で応用できるような内容を提供する				
授業外に必要な学習内容	介護実習で実践状況を見学・参加する				
授業内容	体育指導員としての経験を踏まえ、本科目では現場ですぐに使えるレクリエーションとアイデアを教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	レクリエーションとは？レクリエーションの財を考える	
2	福祉レクリエーションの考え方 季節にあった折紙	ファイル 折紙 文房具
3	季節に合った折紙 アイスブレーキング1	ファイル 折紙 文房具
4	季節に合った折紙 アイスブレーキング2	ファイル 折紙 文房具
5	身近な物を使ったレクリエーション1	ファイル 文房具
6	身近な物を使ったレクリエーション2	ファイル 文房具
7	身近な物を使ったレクリエーション3	ファイル 文房具
8	季節を楽しむ飾り制作1	ファイル 文房具
9	静的レクリエーション	ファイル
10	季節を楽しむ飾り制作2	ファイル 文房具
11	動的レクリエーション	ファイル
12	レクリエーション支援の為のスケジュールと体操作り	ファイル
13	レクリエーション支援実習1	
14	レクリエーション支援実習2	
15	レクリエーション支援実習3	

<2019年度>

授業要項

科 目	介護サービスマナー	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	猪俣 早紀	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	「介護・福祉職のための接遇・マナーパーフェクトブック」 「介護職が知っておきたい接遇マナーのきほん」 ※プリントを配布します				
参考書	特になし				
成績評価	◎ 出席状況 ◎ 演習への取り組み姿勢 ◎ 提出物				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする				
到達目標	接遇・マナーの基本を身に付ける				
留意点	演習には積極的に取り組むこと				
授業外に必要な学習内容	日々の生活や実習の場で応用できるよう努力すること				
授業内容	介護の仕事は、人とかかわることが中心となることを理解し、利用者、家族、さらには同僚と良好な関係をつくるためのスキルを身に付ける				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	介護における接遇マナー	プリント
2	接遇マナーの基本 (外見・身だしなみ)	プリント
3	接遇マナーの基本 (あいさつ)	プリント
4	接遇マナーの基本 (言葉づかい)	プリント
5	接遇マナーの基本 (謝罪)	プリント
6	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ①)	プリント
7	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ②)	プリント
8	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ③)	プリント
9	実践から学ぶ (職員同士のかかわり)	プリント
10	まとめ	プリント

<2019年度>

授業要項

科目	介護の基本 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	4単位(30コマ)
教員	猪俣 早紀	領域	介護	実務経験	無
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I (中央法規)				
参考書	介護福祉用語辞典(中央法規) プリントを配布する為、ファイルを用意してください				
成績評価	◎ 定期試験60点以上 ◎ 出席状況 ◎ 提出物 ◎ 授業態度				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下) ※C以上を合格とする				
到達目標	「その人らしい生活」を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を身に付ける				
留意点	プリントの管理をきちんと行うこと				
授業外に必要な学習内容	国家試験の動向に興味を持ち、自宅での学習にも励むこと				
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位のサービスを提供する為に、介護福祉士の役割を知り、専門職としての社会的役割を理解する ・介護福祉士としての知識の習得や資格取得への目標を持てるようにする 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	<第1章 自立に向けた介護とは> 介護の歴史 事例から考える	テキスト プリント
2	続き	テキスト プリント
3	続き 発表	テキスト プリント
4	介護の概念・定義	テキスト プリント
5	介護問題の背景	テキスト プリント
6	中間試験返却 振り返り	テキスト プリント
7	介護福祉士に求められる役割	テキスト プリント
8	事例で学ぶ職業倫理	テキスト プリント
9	利用者のQOLを高める視点	テキスト プリント
10	「自立」と「自律」に向けた支援	テキスト プリント
11	<第2章 介護を必要とする人の理解> 生活とは何か	テキスト プリント
12	生活の特性	テキスト プリント
13	障害をもった人の暮らしを支える介護 DVD	テキスト プリント
14	DVD続き まとめ	テキスト プリント
15	前期試験に向けて まとめ	テキスト プリント

授業内容

介護の基本 I

16	前期試験	
17	「その人らしさの背景」	テキスト プリント
18	生活障害の視点	テキスト プリント
19	生活環境の重要性（屋内）	テキスト プリント
20	生活環境の重要性（屋外）	テキスト プリント
21	善光寺へ車いす体験	テキスト プリント
22	まとめ	テキスト プリント
23	まとめ 発表	テキスト プリント
24	こころの健康を奪う生活環境	テキスト プリント
25	<第3章 介護のはたらきと基本視点> 介護職が行う生活支援	テキスト プリント
26	相談援助の方法	テキスト プリント
27	尊厳を支える介護とは	テキスト プリント
28	介護とリハビリテーション	テキスト プリント
29	後期試験にむけて まとめ	テキスト プリント
30	後期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	コミュニケーション技術	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	中島 智子・宮津 治美(手話)	領域	介護	実務経験	介護施設等
教科書	コミュニケーション技術(中央法規出版社) 手話:オリジナルプリント				
参考書	手話:「手話教室」「聴覚、言語障害者とのコミュニケーション」その他				
成績評価	定期試験・演習等の取り組み姿勢、提出物、出席状況 手話:授業態度・手話の習熟・試験・提出物・出席状況等により総合的に評価する。				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者と利用者に関わる人たちの関係調整能力を習得する。 ・さまざまなコミュニケーション障害の内容とコミュニケーション障害がある利用者への対応の仕方を理解する。 手話:聴覚障害について理解をし、ろう者と手話で日常会話ができるための基本を身につける。				
留意点	授業でのグループ討議やロールプレイなどに積極的に参加すること。 手話:手話は見ることばなので講師または学生同士の表現をよく見て欲しい。				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を、自宅で復習すること。 ・施設実習でのコミュニケーションは、積極的に行うこと。 手話:音のない世界を体験してみる(音声無しでのテレビ鑑賞等) 前回の復習と次週の予習(指文字・数字表現の練習等)				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では日常生活の様々な場面で利用者やその家族との信頼関係形成のためのコミュニケーション技術と、利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際、他職種連携の必要性と留意点を教授。 手話:様々な手段を使って伝え合うことを学ぶ。 手話の形や動きを視覚的にとらえ、あいさつや自己紹介、日常会話の表現を学ぶ。 聴覚障害や聴覚障害者について理解する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第1章 介護におけるコミュニケーションの基本 第1節 コミュニケーションの意義と目的	パソコン プロジェクター
2	第1節 コミュニケーションの基本 自己開示 ジョハリの窓	パソコン プロジェクター
3	第2節 介護におけるコミュニケーションの役割 好感度、信頼感を高める	パソコン プロジェクター
4	第3節 介護における生活支援とコミュニケーション 言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション	パソコン プロジェクター
5	第3節 介護福祉士に求められるコミュニケーション技術	パソコン プロジェクター
6	第2章 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 第1節 話を聞く技法（共感と傾聴）	パソコン プロジェクター
7	第2節 利用者の感情表現を察する技法	パソコン プロジェクター
8	第3節 利用者の納得と同意を得る技法	パソコン プロジェクター
9	第4節 質問の技法	パソコン プロジェクター
10	第5節 介護職に求められる相談・助言・指導の技法 バイステックの7原則	パソコン プロジェクター
11	第6節 利用者の意欲を引き出す技法	パソコン プロジェクター
12	第7節 利用者と家族の意向を調整する技法 第8節 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 法 回想	パソコン プロジェクター
13	プロセスレコードの書き方	パソコン プロジェクター
14	第3章 利用者の特性に応じたコミュニケーション 第1節 コミュニケーション障害の理解	パソコン プロジェクター
15	前期定期試験	
16	【手話】聴覚障害とは？ コミュニケーションの方法・あいさつの手話表現 身振りで表現	絵カード
17	【手話】名前の表現 指文字	
18	【手話】数字の表し方 家族の表現	絵カード
19	【手話】時の経過（一日・一週間・一年の表現）	
20	【手話】趣味について 天気・健康について ろうあ高齢者について	DVD

授業内容

コミュニケーション技術

21	第1節 コミュニケーション障害の原因と理解する視点 高次脳機能障害、失語症	パソコン プロジェクター
22	第2節 コミュニケーション障害のある利用者への対応	パソコン プロジェクター
23	第3節 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際	パソコン プロジェクター
24	第4章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーション	パソコン プロジェクター
25	第2節 記録 介護における記録の意義と目的	パソコン プロジェクター
26	第2節 記録 記録の書き方と留意点、情報の保護と管理	パソコン プロジェクター
27	第3節 報告・連絡・相談、苦情対応	パソコン プロジェクター
28	第4節 会議、模擬会議の準備	パソコン プロジェクター
29	後期定期試験	
30	模擬会議	パソコン プロジェクター

<2019年度>

授業要項

科目	生活支援技術(生活支援の基本)	学科名	介護福祉学科	履修年次	1年次
教員	中居 時子	教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教科書	「新・介護福祉養成講座 生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版)				
参考書					
成績評価	定期試験、出席状況、聴講及び実習態度、レポート				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	生活支援の意義と目的、ICFの視点、住まいの役割と機能を理解し利用者の快適な生活を支えることが出来る。衣食住の衛生管理の意義を理解し、高齢者や障害のある人の生活を支援することが出来る。さらに災害時における生活の支援ができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	自分の生活・高齢者の生活に関心を寄せることで、生活の意義を理解し、それらの情報に関心を持って学ぶことが出来る。				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生活支援の理解 ②居住環境の整備 ③福祉用具の意義 ④自立に向けた家事の介護 ⑤応急手当の知識と技術 ⑥被災地」で活動する際の心構え 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス はじめに ARマークについて 1 生活支援とは何か 2 ライフサイクルと生活の豊かさ 3 生活支援のポイント	講義 テキストP 2～11
2	生活支援者として良きパートナーとなり得る為に 支援のポイント ・関心を寄せる・観察する・寄り添う・傾聴する・受容するなど	演習 テキストP 2～11
3	第2節 1 ICFの視点に基づく生活支援 2 本人を理解するためのICFの視点 3 生活支援とは	講義 テキストP 12～21
4	3 生活支援とは ①介護福祉職とその利用者 ②心身の状況に応じた生活支援 ③根拠ある生活支援 生活支援の技法（基本技法、分析技法、専門技法） 第3節生 活支援とチーム」アプローチ	講義・演習 テキストP 22～29
5	第2章 居住環境の整備 第1節 住まいの役割と機能 ①住まいの役割と機能 ②家族と生活空間	講義 演習 テキストP 32～34
6	第2節 生活空間 1 人と空間 ①生活行為と生活空間 ②人体寸法と動作空間	講義 演習 テキストP 35～37
7	③起居様式 2 加齢と生活空間 ①寝室 ②トイレ ③浴室 ④洗面脱衣室 ⑤台所 ⑥居間と・食事室 第3節 快適な室内環境 1 生活環境と室内環境 2 室内気候の調整 ①熱環境の調整	講義 演習 テキストP 37～48
8	②通風と換気 3 明るさの調整 ①採光 ②照明 4 音環境の調整 ①騒音 ②音の伝わり方と防ぎ方 ③高齢者と音 5 住まいの維持・管理 ①点検 と修理 ②汚れと掃除	講義 テキストP 48～55
9	第4節 第5節 第6節 1 日常安全 2 災害に対する備え 1 高齢者の住まい 2 障害者の住まい 3 住まいと地域 1 居住環境の整備における他職種連携の必要性 2 他職種と介護福祉職との連携	講義 テキストP 56～80
10	第4章 第1節 1 福祉用具とは 2 公的制度における福祉用具の給付 の変遷 3 福祉用具を使用する意義 4 介護ロボットの開発・活用に見る これらの福祉用具の可能性	講義 テキストP 194～199
11	第2節 福祉用具の種類 1 福祉用具の分類 2 公的制度における 福祉用具サービス ①介護保険法における福祉用具サービス	講義 テキストP 200～204
12	②障害者総合支援法における福祉用具サービス	講義 テキストP 56～80
13	第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点 1 解決手段は福祉用具だけではない 2 福祉用具に関する リスクとリスクマネジメント 3 福祉用具提供のプロセス 4 福祉用具を選ぶためのアセスメントの 視点 5 福祉用具の適合・モニタリングの視点	講義 演習 テキストP 205～213
14	定期試験に向けて 振り返り	
15	定期試験	
16	第1章 第1節 自立を支える家事 2 自立した家事の一連の流れ 3 自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと 7 家庭 経営、家計の管理	講義 演習 テキストP 216～228 247～248
17	調理の介助方法 献立の立て方 買い物 調理実習の準備	〃
18	調理実習	〃

授業内容

生活支援技術(生活支援の基本)

19	調理実習	〃
20	調理実習	〃
21	調理実習	〃
22	2 洗濯 3 掃除 ごみ捨ての介助 洗濯 掃除の実習	講義 演習 テキストP223~246
23	裁縫の実習	〃
24	裁縫の実習	〃
25	7 家庭経営、家計の管理 第3節 1 家事の介護における他職種連携の必要性 2 在宅の場合 3 施設の場合	講義 演習 テキストP246~259
26	第6章 第1節 1 想定される事故と予防の視点 2 応急手当とは 第2節 1 外傷 2 骨折 3 窒息 4 火傷	講義 演習 テキストP268~273
27	第7章 第1節 1 生活支援の重要性 2 現場の状況 3 生活の主役はその人自身 4 自分自身の自立 5 活動の中止 6 支援者としてのあり方 7 介護福祉士自身が被災した場合	講義 演習 テキストP276~281
28	第2節 1 被災地における活動場所 2 災害時における生活支援	講義 演習 テキストP282~300
29	定期試験に向けて 振り返り	
30	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	生活支援技術（高齢者支援）	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	6単位(90コマ)
教員	内城ひかり・中居時子・畠山仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ」「最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ」（中央法規）				
参考書	「実技試験のチェックポイント」（中央法規）				
成績評価	定期試験(筆記・実技) 授業、演習態度 出席状況				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	生活支援技術で学ぶ介護技術は単に介助の技法を学ぶだけではなく、根拠に基づいた自立支援の視点で行われることを理解する。 自立に向けた介護技術を習得し、残存機能を活かした生活支援の展開を身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	介護技術を習得できるよう努力していくこと				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①生活とは何かを理解しその人らしい暮らしを支えるための基礎的知識・技術を、講義と演習を通して習得する。 ②利用者の状況を観察する力を身につけ、個性を大切に自立支援につながる知識と技術を、講義を演習を通して学ぶ。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業計画説明、実習室の使い方、注意事項	教科書 プリント
2	介助姿勢について	教科書
3	高齢者の生活支援とは	教科書
4	第7章 第1節 睡眠の意義と目的	教科書
5～6	第7章 第2節 睡眠における介護技術 ベッドメイキング	実技室
7	第7章 第3節 睡眠の介護における他職種の役割と協働	教科書
8～10	第7章 第2節 睡眠における介護技術 臥床者がいる場合のシーツ交換	実技室
11	第3章 第1章 移動の意義と目的	教科書
12～13	第3章 第2節 体位変換の介助	実技室
14	第3章 第3節 移動の介護における他職種の役割と協働	教科書
15～19	第3章 第2節 体位変換の介助	実技室
20	第3章 第2節 車椅子移動	実技室

授業内容

生活支援技術(高齢者支援)

21~24	第3章 第2節 ベッドから車いすへの移乗	実技室
25	第2章 第1節 身支度の意義と目的	教科書
26	第2章 第2章-1 整容における介護技術	実技室
27~30	第2章 第2節 自立に向けた、衣服の着脱の介助技術	実技室
31	第4章 第1節 食事の意義と目的	教科書
32	第4章 第3節 食事介助における他職種の役割と協働	教科書
33~35	第4章 第2節 食事における介護技術（口腔ケア・トロミ剤 含）	実技室
36	実習に向けて（ベッドメイキング・移乗介助・着脱介助の復習）	実技室
37	第5章 第1節 入浴・清潔保持の意義と目的	教科書
38	実習の振り返り	実技室
39	振り返り試験範囲（筆記） ①	教科書
40~41	第5章 第2節 入浴・清潔保持における介護技術（個浴）	実技室
42	振り返り試験範囲（筆記） ②	実技室
43~44	第5章 第2節 入浴・清潔保持における介護技術（ベッド上洗髪）	実技室
45	振り返り試験範囲（実技）	実技室
46~48	前期試験（筆記・実技）	教科書
49	第3章 第3節 入浴・清潔保持の介助における他職種の役割と協働	教科書
50	第3章 第2節 歩行介助	実技室
51~52	床走行型リフト・スライディングシート・ボード	実技室
53~54	第2章 第2節 ベッド上での衣服の着脱の介助技術	実技室
55	第6章 第1節 排泄の意義と目的	教科書
56	第6章 第2節 排泄における介護技術	実技室
57	実習の振り返り	実技室

授業内容

生活支援技術(高齢者支援)

58～63	第6章 第2節 排泄における介護技術	実技室
64～65	第5章 第2節 入浴・清潔保持における介護技術 手浴・足浴	実技室
66	力のいらない介護	実技室
66～72	グループ別 発表準備	実技室
73～74	発表会	実技室
75	床走行型リフト・スライディングシート・ボード 振り返り	実技室
76	環境整備	実技室
77	着脱介助の振り返り	実技室
78	移乗介助の振り返り	実技室
79	実習に向けて 復習	実技室
80	実習の振り返り	実技室
81	排泄介助の振り返り	実技室
82	第8章 第1節 終末期の意義と介護の役割	教科書
83	第8章 第3節 終末期における介護技術、他職種との役割と協働	教科書
84	振り返り試験範囲（筆記）	教科書
85	福祉用具の種類について	資料
86～87	振り返り試験範囲（実技）	
88～90	後期試験（筆記・実技）	

<2019年>

授 業 要 項

科 目	介護過程 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	角田 秀子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護過程」(中央法規)				
参考書	介護過程ワークブック(みらい)				
成績評価	定期試験60点以上・出席率				
評価基準	学則に準ずる				
達成目標	介護過程の意義と基礎的理解をする				
留意点	講義と演習を並行させ、グループによる討議や発表、ロールプレイなど学生参加型授業が主となる。グループワーク・発表への積極的な参加を図ること。				
授業外に必要な学習内容	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う』ことを目標とする。				
授業内容	すべてのケアは支援者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えた上で成立している。 本科目では、介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、支援を提供する対象が誰であれ、どのような生活場面であれ、課題を理解し目標を定め、もとめられる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要であることを教授。				

授 業 内 容

日 程	内 容	授業方法・使用機材等
1	2年生「ICF」の発表に参加	教科書
2	オリエンテーション、授業概要の説明 「介護過程」の展開を学ぶ前に	教科書
3	介護過程の意義 遅刻の例で「問題解決思考」について整理する	教科書
4	生活支援の考え方と介護過程の必要性	教科書
5	介護過程と生活支援	教科書
6	介護過程の全体像 アセスメント	教科書
7	高齢者の生きてきた時代・生活背景についての理解① 学習発表会タイトル決め	教科書
8	高齢者の生きてきた時代・生活背景についての理解②	教科書
9	高齢者の生きてきた時代・生活背景についての理解③	教科書
10	高齢者の生きてきた時代・生活背景についての理解④ 発表会リハーサル(パワーポイント使用)	教科書
11	高齢者の生活史を知る 学習発表会(パワーポイント)	教科書
12	アセスメントの実際	教科書
13	介護過程の基本的な流れ 「ケアマネジメント」と「介護過程」の関係	教科書
14	試験範囲学習	教科書
15	前期定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	介護過程Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
教員	角田 秀子	教授法	講義	単位数	3単位(23コマ)
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護過程・第3版」(中央法規)				
参考書	「介護過程ワークブック」(みらい)				
成績評価	定期試験60点以上 出席状況				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	介護過程の展開を理解する				
留意点	講義と演習を並行させ、グループによる討議や発表、ロールプレイなど学生参加型授業が主となる。グループワーク・発表への積極的な参加を図ること。				
授業外に必要な学習内容	専門職としての「介護過程」の展開ができる思考過程を身につけるとはどのようなことなのかを理解する。				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践し、評価することの連続であることを教授する。 把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題に向けて必要な介護実践の内容を計画すること、またICFについて、他者に説明できる段階まで教授する。				

授業内容

日程	内 容	授業方法・使用機材等
1	介護過程Ⅱシラバス説明 介護過程一連のプロセス	資料
2	介護過程の理解① ケアプランと個別援助計画 ICFの特徴と基本的な考え方	教科書
3	介護過程の理解② アセスメント表作成 → Hさんの事例	教科書
4	介護過程の理解③ アセスメント表作成 → Dさんの事例	教科書
5	アセスメント表をICFの視点で整理 フェイスシート作成	教科書
6	Dさんの事例 → 情報の解釈	教科書
7	Dさんの事例 → 課題の明確化	教科書
8	ケアプランと個別援助計画の関係 介護計画の立案	教科書
9	目標の設定	教科書
10	目標の設定の実際 長期目標と短期目標	教科書
11	目標の表現の仕方	教科書
12	介護計画シート	教科書
13	実施の際の留意点	教科書
14	評価の意義と目的	講義・演習
15	ICFを介護過程にどう活かすか①	教科書

授業内容

介護過程Ⅱ

日 程	内 容	授業方法・使用機材等
16	ICFを介護過程にどう活かすか②	教科書
17	ICFを介護過程にどう活かすか③ ICF発表、役割・担当決め	教科書
18	ICF導入のもつ意味 ICF発表原稿づくり	教科書
19	ICFについて 発表原稿づくり	教科書
20	ICFについて 発表原稿づくり	教科書
21	後期試験範囲学習	教科書
22	後期定期試験	
23	後期定期試験、解説 授業振り返り	

<2019年度>

授業要項

科目	介護総合演習 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	内城 ひかり	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	介護総合演習・介護実習 (中央法規)				
参考書	介護福祉用語辞典、よくわかる介護記録の書き方				
成績評価	授業態度及び出席状況 提出物 実習評価 ボランティア活動状況 等総合的に評価				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率2/3以上を基準とする。 ・実習評価60%以上の得点を基準とする。 ・年3回以上のボランティアへの参加 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 実習に臨む基本的な姿勢を身につけ、明るく元気に積極的な実習ができる。 ② 利用者の気持ちに寄り添い、利用者の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ③ 介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことができるようになる。 				
留意点					
授業外に必要な学習内容	実習関連書類の管理				
授業内容	<p>介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を重点的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 介護実習に向けての心構え、準備を行う。 ② 自己の実習目標を持ち実習に臨み、実践を通して課題を明確にすることができる。 ③ 実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる。 <p>※ 実習前に検便の実施、オリエンテーションに出向く。 後期実習前にはインフルエンザ予防接種を受ける。</p>				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第一章 介護総合演習で何を学ぶか 介護実習概要の説明、実習先施設について	プリント
2	第2章 介護実習で何を学ぶか 各期の介護実習内容 施設見学について ※前期施設実習希望調査配布	教科書 プリント
3	第4章 実習先の特徴と学ぶべきポイント	教科書
4	介護福祉士に求められるもの ※腸内細菌容器配布	教科書 プリント
5	第3章 介護実習前後の流れ 実習記録の書き方	教科書 プリント
6	実習関連書類作成 ※居宅実習希望調査配布	プリント
7	第I期前期実習 オリエンテーション	該当者
8	第I期前期実習 オリエンテーション	該当者
9	前期実習実習前準備 最終確認	プリント
10	第I期前期施設実習 お礼状作成	

授業内容

介護総合演習Ⅰ

11	居宅実習について ※後期実習希望調査配布	プリント
12	実習関連書類作成	プリント
13	実習関連書類作成	プリント
14	居宅実習オリエンテーション	
15	介護福祉士に求められるもの ②	教科書
16	居宅実習前 最終確認	プリント
17	居宅実習先へのお礼状作成	プリント
18	居宅実習先へのお礼状作成 ※インフルエンザ予防接種について	
19	第5章 実習Ⅰの展開 ※腸内細菌容器配布	教科書
20	後期実習課題について（情報収集）	プリント
21	実習関連書類作成	プリント
22	第Ⅰ期後期実習 オリエンテーション	該当者
23	第Ⅰ期後期実習 オリエンテーション	該当者
24	後期実習課題について（情報収集）	プリント
25	後期実習課題について（情報収集）	プリント
26	後期実習前準備 最終確認	教科書 プリント
27	帰校日	プリント 実習関連資料
28	帰校日	プリント 実習関連資料
29	第Ⅰ期後期施設実習先へお礼状の作成	
30	研究発表に向けて	

<2019年度>

授業要項

科目	発達と老化の理解	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	単位4(30コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院
教科書	発達と老化の理解(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 医療的ケア(中央法規・メヂカルフレンド社) 成人看護学(医学書院) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) おはよう21(中央法規) ふれあいケア(全社協)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)				
到達目標	人間が誕生し、成長発達する過程と老化していく変化の過程を理解し、適切な介護の提供ができるようにする。				
留意点	からだとところの変化の関連性について理解する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習現場で高齢者と触れ合うことで理解を深める ●「生活支援(高齢者支援)」「心と体のしくみ」と関連して理解する ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	看護職員として病院勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①人間の成長と発達についての理論を理解する ②老化による心身の変化を理解する ③加齢変化が日常生活に及ぼす影響を理解する ④加齢とともに起こりやすい疾病について理解する				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第1章 人間の成長と発達 第1節 成長・発達の考え方	講義 ワークショップ
2	第2節 成長・発達の原則	講義
3	第3節 成長・発達に影響する要因	講義
4	第2章 人間の発達段階と発達課題 第1節 発達理論	講義
5	第2節 発達段階と発達課題	講義
6	第3節 身体的機能の成長と発達	講義 ワークショップ
7	第4節 心理的機能の発達	講義 ワークショップ
8	第5節 社会的機能の発達	講義 ワークショップ

授業内容

発達と老化の理解

9	第6節 発達段階別にみた特徴的な疾病や障害	講義
10	第3章 老年期の特徴と発達課題 第1節 老年期の定義	講義
11	第2節 老化とは (疑似体験)	講義・演習
12	第3節 老年期の発達課題	講義
13	第4節 老年期をめぐる今日的課題	講義 ワークショップ
14	第4章 老化に伴うこころとからだの変化と生活 第1節 老化に伴う身体的な変化と生活への影響	講義
15	試験に向けての振り返りとまとめ	講義
16	定期試験	
17	第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
18	第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
19	第5章 高齢者と健康 第1節 健康長寿に向けての健康	講義
20	第2節 高齢者の症状・疾患の特徴	講義
21	第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意事項 1 骨格系、筋系 2 脳・神経系	講義
22	3 感覚器系 4 循環器系	講義
23	5 呼吸器系 6 消化器系	講義
24	7 腎・泌尿器系 8 内分泌・代謝系	講義
25	9 歯・口腔疾患 10 悪性新生物	講義

授業内容

発達と老化の理解

26	11 感染症 12 精神疾患	講義
27	13その他	講義
28	第4節 保健医療職との連携①	講義 ワークショップ
29	テスト前の振り返りとまとめ	講義
30	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	認知症の理解 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	田中 正廣	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	認知症の理解(中央法規)				
参考書	まとめ資料 VTR学習				
成績評価	テストとレポートを総合的に評価する				
評価基準	受講レポートによって授業内容の理解と考察を文章にまとめる				
到達目標	認知症の人をひとりの人として理解する自分をつくる				
留意点					
授業外に必要な学習内容	認知症サポートやあいサポーター養成講座を受講し、実際に体験を通して学ぶ機会を増やす				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①認知症の疾患について理解する(認知機能の障害、認知症の人の心理) ②生活上の障害・対人関係の障害・社会の障害を理解する ③認知症を取り巻く状況を考える				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 認知症 導入	教科書
2	第1節 認知機能の障害①	教科書
3	第1節 認知機能の障害②	教科書
4	第2節 認知症の人の心理①	教科書
5	第2節 認知症の人の心理②	教科書
6	第2章 認知症 (障害) 第1章 生活上の障害①	教科書
7	第2章 認知症 (障害) 第1章 生活上の障害②	教科書
8	第2節 対人関係の障害 (コミュニケーション障害)	教科書
9	第3節 社会関係の障害	教科書
10	第3章 障害を抱えて生きることへの支援 第1節 認知症を取り巻く状況	教科書
11	第2節 認知症ケアの理念と視点	教科書
12	第3節 認知症当事者の視点から見えるもの	教科書
13	総まとめと試験対策	教科書
14	定期試験	
15	振り返り・まとめ	

<2019年度>

授業要項

科目	障害の理解 I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	石坂 正明	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	新介護福祉士養成講座 13障害の理解 (介護福祉士養成講座委員会: 中央法規)				
参考書	障害の理解 (谷口敏代編集: メヂカルフレンド社)				
成績評価	前期の学期末試験を実施する。 学期末試験は多肢選択式とする。				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	障害に係る基礎知識の習得とともに、障害をもつ本人や家族の状況を理解し、障害者自立支援の具体的な事例を学び、効果的な介護をめざす。				
留意点	資料の配布、プロジェクターを使用する。				
授業外に必要な学習内容	実習等により障害者や高齢者と関わり、身体的な障害の理解を深める。 また、障害の種別でどのような心理的な影響があるか理解を深める。				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では「障害者の理解」「医学一般」と関連させ、原因となる疾患を理解し、障害の総合的な理解を図るよう配慮する。 障害をもつ当事者との関わりから、障害者の全体像、生活の実際、ノーマライゼーション等を実践的に学べるよう配慮する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	障害の基礎的理解 障害の概念を理解する。	プロジェクター
2	障害の基礎的理解 障害者福祉の基本理念を理解する。	プロジェクター
3	障害のある人の生活の理解 1 視覚障害のある人の生活を理解する。	プロジェクター
4	障害のある人の生活の理解 1 聴覚言語障害のある人の生活を理解する。	プロジェクター
5	障害のある人の生活の理解 1 重複障害のある人の生活を理解する。	プロジェクター
6	障害のある人の生活の理解 2 肢体不自由のある人の生活を理解する。	プロジェクター
7	障害のある人の生活の理解 2 知的障害のある人の生活理解する。	プロジェクター
8	障害のある人の生活の理解 2 精神障害のある人の生活理解する。	プロジェクター
9	障害のある人の生活の理解 2 高次脳機能障害のある人の生活理解する。	プロジェクター
10	障害のある人の生活の理解 2 発達障害のある人の生活理解する。	プロジェクター
11	障害のある人の生活の理解 2 重症心身障害のある人の生活理解する。	プロジェクター
12	事例研究 1	プロジェクター
13	事例研究 2	プロジェクター
14	事例研究 3	プロジェクター
15	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科 目	心と体のしくみ I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位 (15コマ)
教 員	中村 京子	領域	心と体のしくみ	実務経験	保健所
教科書	こころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メディカルフレンド社) こころとからだのしくみ(メディカルフレンド社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護技術の根拠になる人体の構造や機能を理解し、介護サービスにおける安全への配慮ができるようにする				
留意点	人間のこころとからだの関係性を理解する				
授業外に必要な学習内容	実習を通し授業と関連づけて理解する				
授業内容	看護職員として保健所での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①健康とは何かを理解する ②こころのしくみを理解する(人間の欲求、自己実現と尊厳、こころのしくみの基礎) ③からだのしくみを理解する(心身の調和、生命の維持と恒常性のしくみ、からだの部位の役割)				

授業内容 心と体のしくみ I

日 程	内 容	使用機材等
1	シラバスの説明 序章「健康」とは何か 1 健康の定義	教科書
2	2 「健康」づくり 3 健康観	教科書
3	第1章 こころのしくみを理解する 第1節 人間の欲求とは 基本的欲求 社会的欲求 自己実現とは	教科書
4	第2節 自己実現と尊厳 【演習課題】 自己概念と影響する要因 自立への意欲と自己概念	教科書
5	自己実現と尊厳、生きがい その他 【演習課題】	教科書
6	第3節 こころのしくみの基礎 1 「こころ」とは何か	教科書
7	2 脳のしくみ	教科書
8	3 学習・記憶・思考のしくみ	教科書
9	4 感情のしくみ 【演習課題】	教科書
10	5 認知のしくみ 【演習課題】	教科書
11	6 意欲・動機づけのしくみ 7 適応のしくみ	教科書
12	【演習課題】 第2章 からだのしくみの理解 1 心身の調和	教科書
13	2 生命の維持と恒常性のしくみ 【演習課題】	教科書
14	これまでの振り返り	教科書
15	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	心と体のしくみⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	中村 京子	領域	心と体のしくみ	実務経験	保健所
教科書	こころとからだのしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メディカルフレンド社) こころとからだのしくみ(メディカルフレンド社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護サービスの根拠になるこころとからだのしくみを理解し、安全な介護の提供に繋げる考え方を身につける				
留意点	人間のこころとからだの関係性を理解する				
授業外に必要な学習内容	実習を通し授業と関連づけて理解する				
授業内容	看護職員として保健所での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①身支度に関連したこころとからだのしくみを理解する ②移動に関連したこころとからだのしくみを理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	シラバスの説明 第2部 こころと体のしくみⅡ 第3章 移動のしくみ 1 なぜいどうするのか	教科書
2	2 基本的な姿勢 3 移動に関連したこころのしくみ	教科書
3	4 移動に関連したからだのしくみ【演習問題】	教科書
4	第2節 心身の機能低下・障害が及ぼす移動への影響 1 精神機能の低下が移動におよぼす影響【演習問題】	教科書
5	2 身体機能の低下が移動に及ぼす影響【演習問題】	教科書
6	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 1 移動の観察ポイント 2 移動での医療職との連携のポイント	教科書
7	【演習問題】 振り返り	教科書
8	第4章 身じたくに関連したしくみ 第1節 身じたくのしくみ 1 なぜ身支度を整えるのか	教科書
9	2 身じたくに関連したこころのしくみ 3 身じたくに関連したからだのしくみ	教科書
10	【演習課題】 振り返り	教科書
11	第2節 心身の機能低下・障害が及ぼす身じたくへの影響 1 精神機能低下が身じたくに影響を及ぼす影響【演習課題】	教科書
12	2 身体機能低下が身じたくに及ぼす影響【演習課題】	教科書
13	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 1 身じたくでの観察ポイント 2 身じたくでの医療職との連携のポイント	教科書
14	【演習課題】 振り返り	教科書
15	定期試験	

<2019年度>

科 目	医療的ケア I	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	医療的ケア	実務経験	病院
教科書	医療的ケア(中央法規)				
参考書	こころとからだのしくみ(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	個人の尊厳を守り安全な療養生活が維持できるよう、他職種との連携と実践の重要性を学ぶ				
留意点	介護職が医療的ケアを実施することになった社会的背景を理解し、重要な責務を知る				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	<p>看護職として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人の尊厳と自立について理解し「医療倫理」と「介護の倫理」の類似点と相違点を学ぶ ②保健医療制度とチーム医療について理解する ③安全な医療的ケアを実施するためのリスクを理解し、セーフティケアについて考える ④清潔・不潔を理解し感染予防意識を身につける ⑤バイタルチェックと急変時の対応を理解する ⑥救急蘇生法を理解する 				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 医療的ケア実施の基礎知識 介護福祉士が医学知識が必要なわけ	教科書・資料
2	第1節 ①医療的ケアとは	教科書・資料
3	②医行為について(医療倫理について)	教科書・資料
4	③喀痰吸引制度(社会福祉士及び介護福祉士法改定)	教科書・資料
5	④医療的ケアと喀痰吸引等の背景	教科書・資料
6	⑤その他の制度	教科書・資料
7	第2節 安全な療養生活 ①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	教科書・資料
8	演習の実際	講義 ワークショップ

授業内容

9	第3節 清潔保持と感染予防 ①感染予防 ②介護職の感染予防	教科書・資料
10	第3節 清潔保持と感染予防 ③療養環境の清潔、消毒方法 ④消毒と滅菌	教科書・資料
11	第4節 健康状態の把握 バイタルチェック、応急手当	教科書・資料
12	リスク管理 (リスクマネジメント)	教科書・資料
13	第2章 喀痰吸引 (基礎的知識) 第1節 高齢者の喀痰吸引概論 ①呼吸のしくみ ②喀痰吸引とは P98	教科書・資料
14	喀痰吸引の実際 DVDで確認 必要物品確認	教科書・資料
15	第3章 経管栄養 (基礎的知識) 第1節 概論 ①消化器系のしくみと症状	教科書・資料
16	第1節 ②経管栄養とは ③注入の知識と留意事項	教科書・資料
17	経管栄養の種類としくみ DVD確認 必要物品確認	教科書・資料
18	経管栄養により生じる危険 急変・事故発生時の対応と再発防止	教科書・資料
19	振り返り (喀痰吸引・経管栄養)	教科書・資料
20	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	介護保険と障害者自立支援	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	小林 博明	領域	人間と社会	実務経験	社会福祉協議会
教科書	新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解(中央法規)				
参考書	はじめての社会保障(有斐閣)				
成績評価	定期試験(60%) 提出物・出席率・授業態度(40%)				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護保険、障害者支援について理解するとともに、支援者としての視点をもって役立てることができる。				
留意点	学生自ら主体性を持ち、学びを深めることができる。				
授業外に必要な学習内容	新聞等から、介護や障害者福祉に関する出来事や課題に関心をもって把握していること。 自分の生活や実習等を通して、実際の取り組みから制度のあり方について考える機会を持つこと。				
授業内容	福祉専門職員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ① 一人ひとりの生活を理解し、その生活を支えるための制度について理解する。 ② 制度がなぜ必要となったのかについて理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業計画説明 介護保険制度創設の目的	資料・教科書
2	介護保険制度のしくみ①介護保険利用の流れ	教科書
3	介護保険制度のしくみ②介護サービスの内容	教科書
4	介護保険制度のしくみ③新しい地域支援事業	教科書
5	介護保険制度にかかわる組織とその役割	教科書
6	介護保険制度における専門職の役割	教科書
7	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア 介護保険制度のゆくえ	教科書
8	障害者の自立と障害者自立支援制度の目的、動向	教科書
9	障害者自立支援制度のしくみ	教科書
10	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割	教科書
11	介護実践にかかわる諸制度①権利擁護	教科書
12	介護実践にかかわる諸制度②生活保護	教科書
13	前期試験解説	
14	前期試験	
15	介護福祉士の役割 目指す介護福祉士像	教科書

<平成30年度>

授業要項

科目	アクティビティ・ケア (アクティビティ・サービス/音楽療法)		学科名	介護福祉	履修年次	2年次
			教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	室川裕子・猪俣早紀		領域	人間と社会	実務経験	音楽療法研究所
教科書	アクティビティサービス	アクティビティ・サービス ※授業ではプリントを配布します				
	音楽療法	はじめよう音楽リハビリテーション				
参考書	アクティビティサービス	特になし				
	音楽療法	レジメ使用				
成績評価	アクティビティサービス	◎ 出席状況 ◎ 提出物・レポート				
	音楽療法	筆記試験				
評価基準	アクティビティサービス	学則に準ずる				
	音楽療法	学則に準ずる				
到達目標	アクティビティサービス	生活の「快」を考えることができる				
	音楽療法	授業内容に準ずる				
留意点	アクティビティサービス	3コマしかない為、欠席しないこと				
	音楽療法	学生が自ら声を出し行動し仲間と協力すること				
授業外に必要な学習内容	アクティビティサービス	実習体験を元に、人々の日常の「快」を考えることができる				
	音楽療法					
授業内容	アクティビティサービス	その人らしく生きること、より快適な生活を営むことへの積極的な支援のあり方を学ぶ アクティビティ・サービスの考え方「生活の快」を具体化する支援を学ぶ				
	音楽療法	音楽療法士として様々な現場での経験を踏まえ、本科目では音楽療法を学ぶことは音楽を用いて種々の刺激と感動を与えてアクティビティを高めて行く活動となることであり、音楽がアクティビティケアとして心身に刺激を与える方法であることを知り、対象者支援としての在り方を教授。				

授業内容

アクティビティ・サービス (猪俣早紀)

日程	内容	使用機材等
1	アクティビティ・サービスとは何か	プリント
2	事例から読み取るアクティビティ・サービス	プリント
3	事例から読み取るアクティビティ・サービス	プリント

授業内容

音楽療法（室川裕子）

1	音と音楽／音楽療法の考え方を基に対象者支援の在り方を学ぶ	DVD音楽の力、キーボード
2	人と向き合う音楽	教科書
3	音楽とリハビリテーション	教科書
4	音楽を知り音楽療法の目的方法、働き	楽器
5	音楽とリハビリテーション	教科書
6	高齢者の音楽療法（プログラム、楽器を知る）	教科書
7	施設で使える歌詞表、リズム譜作成	教科書
8	プログラムを作成 グループに分かれて発表	教科書
9	様々な障がいを持つ人と向き合う音楽	教科書
10	演習 試験について	
11	試験	
12	音楽とリハビリテーションのまとめ	教科書
	※使用機材などはその都度用意	
	※授業日程の内容にズレが生じることがあるかもしれません	

<2019年度>

授業要項

科目	健康論	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	人間と社会	実務経験	介護施設
教科書	医学一般(メディカルフレンド社)				
参考書	喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・(メディカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) からだの地図帳(講談社) 人体解剖図(成美出版) 生理学(西東社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	人間の体のメカニズムを理解し、根拠に基づいたケアと多職種との連携協働が出来るようにする				
留意点	体の構図について理解し、メカニズムについて関連性が持てるようにする				
授業外に必要な学習内容	介護福祉士の業務における根拠となる身体状況について理解し、多職種との連携が出来るようにする				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①人体の構造と働きについて知る ②各器官に関連した疾患・症状を理解する ③各臓器を立体的に配置し、働きの関連性を理解する				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	介護福祉士に求められている医学知識	資料
2	人間の体の身体区分について 解(身体部分の名所) 図	資料・模造紙
3	からだのしくみ(細胞・遺伝)	資料・模造紙
4	器官としての脳	資料・模造紙
5	循環器系の構造と働きと疾患	資料・模造紙
6	呼吸器系の構造と働きと疾患	資料・模造紙
7	腎臓の働きと構造と疾患	資料・模造紙
8	消化器系の働きと疾患	資料・模造紙
9	骨格・筋系の理解	資料・模造紙
10	定期試験	
11	神経系(自律神経)について テスト返し	資料・模造紙
12	解剖図の図解 ①	資料・模造紙
13	解剖図の図解 ②	資料・模造紙
14	解剖図の図解 ③	資料・模造紙
15	解剖図の図解 ④	資料・模造紙

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	初級障害者スポーツ指導員養成講座	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	内城 ひかり	領域	人間と社会	実務経験	介護施設
教科書	新版 障害者スポーツ指導教本初級				
参考書	全国障害者スポーツ大会競技規則集				
成績評価	出席状況、授業態度、レポート提出				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	障害者スポーツの意義と理念を理解し、適切な指導が行えるようになる				
留意点					
授業外に必要な学習内容	地域における様々なボランティア活動への参加				
授業内容	介護福祉士及び障がい者スポーツ指導員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ①障害者スポーツにはどのようなものがあるのか学び、理解を深める ②障害者スポーツ指導の意義と理念を理解する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	障害者スポーツの意義と理念 障がい者自身が、体を鍛えることより残存能力の強化を図り、合併症を予防し、体力や機能に自身を持ち、明るく希望と勇気を抱くようにする事を理解する	プリント PP
2	障がい者スポーツの意義と理念 障がい者自身が、まず体を鍛えることにより、残存能力の強化を図り、合併症を予防し、体力や機能に自身を持ち、明るく希望と勇気を抱くようにする事を理解する。	プリント PP
3	日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度の障がい者スポーツ指導員の役割や組織について理解する。	プリント PP
4	ボランティア論 ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解し、ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する	プリント PP
5	ボランティア論 ボランティアを受ける側の考えとニーズを理解し、ボランティア活動をする際に必要な態度とルールを理解する	プリント PP
6	安全管理 スポーツを実施する際のリスク予防と顕在化した後の対応を学ぶ	プリント PP
7	全国障がい者スポーツ大会の概要 全国障害者スポーツの意義・目的・歴史を学び、全国障害者スポーツ大会の中で、個人競技（バスケット・サッカー等）の競技の原則を学び実習に繋げる。	プリント PP
8	障がいに応じたスポーツの工夫・実施 長野市にあるサンアップルに出向き障がい者の方を理解し、用具の工夫・活用方法を検討し、実技を通して学ぶ	
9	障がいに応じたスポーツの工夫・実施 長野市にあるサンアップルに出向き障がい者の方を理解し、用具の工夫・活用方法を検討し、実技を通して学ぶ	
10	障害者との交流 長野市にあるサンアップルに出向き障がい者とのふれあいを体験する。	

<2019年度>

授業要項

科目	介護サービスマナー	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	1単位(10コマ)
教員	猪俣 早紀	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	「介護・福祉職のための接遇・マナーパーフェクトブック」 「介護職が知っておきたい接遇マナーのきほん」 ※プリントを配布します				
参考書	特になし				
成績評価	◎ 出席状況 ◎ 演習への取り組み姿勢 ◎ 提出物				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	接遇・マナーの基本を身に付ける				
留意点	演習には積極的に参加すること				
授業外に必要な学習内容	日々の生活や実習の場で応用できるよう努力すること				
授業内容	介護の仕事は、人とかかわることが中心となることを理解し、利用者、家族、さらには同僚と良好な関係をつくるためのスキルを身に付ける				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	介護における接遇・マナー	プリント
2	接遇マナーの基本 (外見・身だしなみ)	プリント
3	接遇マナーの基本 (あいさつ)	プリント
4	接遇マナーの基本 (言葉づかい)	プリント
5	接遇マナーの基本 (謝罪)	プリント
6	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ①)	プリント
7	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ②)	プリント
8	実践から学ぶ (利用者とのかかわり ③)	プリント
9	実践から学ぶ (職員同士のかかわり)	プリント
10	まとめ	プリント

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	介護の基本Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
教 員	角田 秀子	教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教科書	新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅱ」 (中央法規)				
参考書	介護福祉士養成テキスト「介護の基本Ⅱ」 (建帛社) 介護サービスのリスクマネジメント (介護労働安定センター)				
成績評価	定期試験60点以上 提出物・レポート 出席状況				
評価基準	学則に準ずる				
達成目標	介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	介護実践の基盤となる考え方や専門知識を修得することにより、2年間で学ぶ専門科目の履修を円滑に進め、より充実した学習にする。 介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できる。				
授業内容	介護福祉士として介護現場での経験を踏まえ、本科目では介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や、障害がある人への理解を深める。介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染対策、介護従事者の健康管理について理解する。				

授 業 内 容

日 程	内 容	授業方法・使用機材等
1	介護の基本Ⅱ 授業要綱説明 介護福祉士を取り巻く制度と社会の動き	講義・演習
2	高齢者を対象としたサービス	講義・演習
3	求められる介護福祉士像について	講義・演習
4	倫理判断の四つの視点	講義・演習
5	社会福祉施設における人権	講義・演習
6	介護サービスの歴史的変遷	講義・演習
7	介護サービスの種類と提供の場	講義・演習
8	介護実践における連携 介護実践現場でのチームアプローチ	講義・演習
9	地域連携	講義・演習
10	介護における安全の確保	講義・演習
11	介護に携わる人の健康管理① 健康管理に必要な知識と技術	講義・演習
12	介護に携わる人の健康管理② 感染管理	講義・演習
13	介護に携わる人の健康管理③ 安心して働ける環境づくり	講義・演習
14	介護労働者の労働環境	講義・演習
15	前期試験	

<2019年度>

授業要項

科 目	リハビリテーション論	学科名	介護福祉学科	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	石坂 正明	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新介護福祉全書別巻2 (澤村誠志編集:メヂカルフレンド社出版)				
参考書	生活支援技術 I (介護福祉士養成講座編集委員会:中央法規出版)				
成績評価	前期の学期末試験を実施する。 学期末試験は多肢選択式とする。				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	リハビリテーションに係る基礎知識の習得とともに、障害者をサポートするシステムを理解し、リハビリテーションの具体的な事例を学び、介護福祉士としての係りに役立てる。				
留意点	資料の配布、プロジェクターを使用する。				
授業外に必要な学習内容	実習等により障害者や高齢者と関わり、リハビリテーションにおける情報収集→アセスメント→プログラムの立案→プログラムの実施→再アセスメントを理解する。				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では「障害者の理解」「医学一般」と関連させ、原因となる疾患を理解し、リハビリテーションの手段とプロセスを理解する。 障害に対するリハビリテーションのみでなく、終末期のリハビリテーション、地域リハビリテーションを実践的に学べるよう配慮する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	リハビリテーションの理念 リハビリテーションの言葉を理解する	プロジェクター
2	リハビリテーションの領域と役割 リハビリテーションチームについて理解する	プロジェクター
3	リハビリテーションの領域と役割 日常生活動作と日常生活関連動作について理解する	プロジェクター
4	リハビリテーションに関する社会資源 福祉サービスと制度について理解する	プロジェクター
5	リハビリテーションと福祉用具について理解する	プロジェクター
6	リハビリテーションと住居の改造、福祉の街づくりについて理解する	プロジェクター
7	リハビリテーション介護 リハビリテーション介護について理解する	プロジェクター
8	障害別リハビリテーションの実際 脳卒中について理解する	プロジェクター
9	障害別リハビリテーションの実際 内部障害について理解する	プロジェクター
10	障害別リハビリテーションの実際 脊髄損傷について理解する	プロジェクター
11	障害別リハビリテーションの実際 その他の疾患について理解する	プロジェクター
12	障害別リハビリテーションの実際 その他の疾患について理解する	プロジェクター
13	地域リハビリテーション 地域リハビリテーションのシステムについて理解する	プロジェクター
14	終末期リハビリテーションについて理解する	プロジェクター
15	定期試験	

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	介護予防と生活リハビリ	学科名	介護福祉学科	履修年次	2年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	猪俣 早紀	領域	介護	実務経験	無
教科書	介護予防運動指導員 養成講座テキスト（東京都健康長寿医療センター）				
参考書	プリントを配布します（ファイルを用意してください）				
成績評価	◎ 全講義・演習を修了し、前・後期の試験、修了試験に合格すること ◎ 講座を全出席すること				
評価基準	最終日に行われる60分の修了試験に合格した者が「介護予防運動指導員」として認定される 学則に準ずる				
到達目標	おたっしや21を実施し、様々なプログラムを実施できる				
留意点	マシンを使用する際には、使用上の注意点を厳守し、危険な取り扱いをしないこと				
授業外に必要な学習内容	◎ 毎回の授業の前に、必ず次行う章を一読してくること ◎ 実習室で行う場合は実習着を着用すること				
授業内容	高齢者一人ひとりの身体機能を十分に活かした筋力向上トレーニング・転倒予防・低栄養予防・口腔機能向上などの指導を行い、高齢者が自立した生活習慣を確立し、いつまでも健康で豊かな人生を送れるよう支援できるように学ぶ				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	老年学・介護予防概論	指定テキスト
2	地域づくりによる介護予防論・高齢者の社会参加と介護予防	指定テキスト
3	介護予防・日常生活支援総合事業と介護予防コーディネーション フレイル・サルコペニア予防特論	指定テキスト
4	介護予防評価学特論	指定テキスト
5	介護予防評価学実習 ①グループ	指定テキスト 実習室
6	介護予防評価学実習 ②グループ	指定テキスト 実習室
7	認知症予防特論	指定テキスト
8	認知症予防実習	指定テキスト 実習室
9	転倒予防特論	指定テキスト
10	転倒予防実習	指定テキスト 実習室
11	尿失禁予防特論	指定テキスト
12	尿失禁予防実習	指定テキスト 実習室
13	リスクマネジメント	指定テキスト
14	口腔機能向上特論	指定テキスト
15	口腔機能向上実習	指定テキスト 実習室

授業内容

介護予防と生活リハビリ

16	行動科学特論 うつ・孤立・閉じこもり予防特論	指定テキスト
17	前期試験対策	指定テキスト
18	前期試験	
19	高齢者筋力向上トレーニング特論	指定テキスト
20	実習 ①グループ	指定テキスト 実習室
21	実習 ②グループ	指定テキスト 実習室
22	実習 ①グループ	指定テキスト 実習室
23	実習 ②グループ	指定テキスト 実習室
24	実習 ①グループ	指定テキスト 実習室
25	実習 ②グループ	指定テキスト 実習室
26	実習 ①グループ	指定テキスト 実習室
27	実習 ②グループ	指定テキスト 実習室
28	実習 全員	指定テキスト 実習室
29	高齢者栄養改善活動特論	指定テキスト
30	介護予防統計学	指定テキスト

<2019年度>

授業要項

科目	生活支援技術（障害者支援）	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	中居 時子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	生活支援技術Ⅲ（中央法規）				
参考書	医学一般、心と体の仕組み、障害の理解				
成績評価	定期試験、授業、実技演習の態度、出席状況				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	要害の特性を理解し、介護を必要とする人の状態を把握し、その人らしく生活できるように支援する技術を習得する。				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 1、利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 2、障害に応じた生活支援技術Ⅰ（視覚障害、聴覚障害、言語障害、重複障害、運動機能障害、内部障害） 3、障害に応じた生活支援技術Ⅱ（知的障害、精神障害、高次機能障害、発達障害、重症心身障害） 4、認知症の人に応じた生活支援技術				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは	テキスト
2	視覚障害に応じた介護 ①視覚障害のある人と生活の理解 ②生活支援と環境整備 ③介護技術の展開 ④他職種の役割と協働・連携	テキスト
3	視覚障害に応じた介護 食事の支援、移動の支援の演習	テキスト 演習用教材
4	演習 テキスト演習課題	テキスト 演習用教材
5	聴覚・言語障害に応じた介護 ①聴覚障害について②聴力検査について③補聴器について	テキスト 演習
6	④コミュニケーションの保障 ⑤言語障害 テキスト演習課題	テキスト 演習
7	重複障害（盲ろう）に応じた介護 ①盲ろう者と生活の理解②生活支援と環境整備	テキスト 演習
8	重複障害（盲ろう）に応じた介護 ③移動における介護技術の展開④他職種の役割と協働・連携 テキスト演習課題	テキスト
9	運動機能障害に応じた介護 ①運動機能障害と日常生活動作②生活場面と支援のポイント	テキスト 演習
10	〃	テキスト 演習
11	③介護技術の展開 起き上がり、移動移乗、食事、整容・更衣	テキスト 演習
12	排泄、入浴、褥瘡予防、関節リウマチ	テキスト 演習
13	脳血管障害 ①支援の方法 寝返り、起き上がり、座位、	テキスト 演習
14	〃 定期試験に向けて	テキスト

授業内容
生活支援技術(障害者支援)

15	前期定期試験	
16	神経・筋疾患による障害①パーキンソン②筋ジストロフィー ③脳性まひ	テキスト
17	廃用症候群を防ぐ支援 テキスト演習課題	テキスト
18	内部障害に応じた介護 心臓機能障害	テキスト
19	腎機能障害	テキスト
20	呼吸器機能障害	テキスト 演習
21	膀胱・直腸機能障害	テキスト 演習
22	肝臓機能障害	テキスト
23	知的障害に応じた介護	テキスト 演習
24	精神障害に応じた介護	テキスト
25	高次脳機能障害に応じた介護	テキスト
26	発達障害に応じた介護	テキスト
27	重症心身障害に応じた介護	テキスト
28	認知症の人に依じた生活介護	テキスト 演習
29	” 定期試験に向けて	テキスト
30	後期定期試験	

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(23コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	介護過程（中央法規）				
参考書	介護過程の展開（日本介護福祉士会）、介護過程の展開（メヂカルフレンド社・建帛社） 介護技術講座（日介協）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	根拠に基づいた介護を提供するための「介護過程」を発展させ、実践的に展開する				
留意点	個別ケアの意義と実践の関連性を理解する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習（復習） 				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ①多様な事例からアセスメント～評価までの思考過程を疑似体験する ②事例を丁寧に読み込むことによって思考過程のトレーニングを行い、目標設定ができるようにする ③利用者の状態とプラン設定の関連性を理解し、個別ケアの実践が展開できるようにする ④事例を通じて、プラン設定と介護技術提供の実践ができる				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第4章 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 第1節 介護過程の実践的展開 第2節 アセスメントの実際 事例 1	教科書・資料
2	第4章 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 第2節 アセスメントの実際 事例 2、事例 3	教科書・資料
3	1年次に学んだことを1年生の前で発表 アンケート・振り返り	教科書・資料
4	第2節 演習 4-1 ●アセスメント表作成（1）と（2）	教科書・資料
5	前回の発表 演習 4-2 ●アセスメント表作成（1）と（2）	教科書・資料
6	第3節「介護過程」展開の実際 課題分析と目標設定について	教科書・資料
7	演習 4-3 ●課題分析と目標設定について	教科書・資料
8	実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク①	教科書・資料
9	実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク②	教科書・資料

授業内容

介護過程Ⅲ

10	実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク③	教科書・資料
11	グループワークを通してわかったことを発表	教科書・資料
12	事例から各種介護実践について考える（１）	教科書・資料
13	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習	教科書・資料
14	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習	教科書・資料
15	課題発表	教科書・資料
16	事例から各種介護実践について考える（２）	教科書・資料
17	定期試験	
18	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習①	教科書・資料
19	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習②	教科書・資料
20	課題発表	教科書・資料
21	ケアカンファレンス、チームアプローチの意義と実際	教科書・資料
22	ケアカンファレンスについて ～学生の事例から①～	教科書・資料
23	ケアカンファレンスについて ～学生の事例から②～	教科書・資料

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅳ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	介護過程(中央法規)				
参考書	介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メヂカルフレンド社・建帛社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立するとともに、実践的思考とスキルの修得を目指す				
留意点	実践力を身につける				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復習) 				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ①多様な事例を基に、課題を見つける力を身につける ②介護現場におけるサービス担当者会議の展開方法を理解する ③介護施設における苦情処理について演習を交えて対処法を考える ④より具体的内容により、介護過程の展開の重要性を理解する				

授 業 内 容

日 程	内 容	使用機材等
1	第5章 利用者の生活と介護過程の展開 第1節 利用者のさまざまなせいかつと介護過程 2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ①	教科書・資料
2	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ②	教科書・資料
3	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ③	教科書・資料
4	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ④	教科書・資料
5	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ⑤	教科書・資料
6	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ⑥	教科書・資料
7	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ⑦	教科書・資料
8	第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程 ⑧	教科書・資料
9	ひも解きシートの活用 認知症高齢者の介護過程	教科書・資料
10	ひも解きシート ●事例 1	教科書・資料
11	ひも解きシート 事例 2 ●	教科書・資料
12	定期試験	
13	試験返却 苦情処理とは	教科書・資料
14	苦情処理①	教科書・資料
15	苦情処理②	教科書・資料

<2019年度>

授業要項

科目	介護総合演習Ⅱ	学科名	介護福祉学科	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	猪俣 早紀	領域	介護	実務経験	無
教科書	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習（中央法規）				
参考書	介護福祉用語辞典（中央法規） ※電子辞書等、必要に応じて用意すること				
成績評価	◎ 授業態度及び出席状況 ◎ 提出物 ◎ 実習評価 ◎ ボランティア参加（3回）				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	専門的スキルを授業・実習を通し身に付けることができる				
留意点	実習関連書類作成、管理を丁寧に行うこと				
授業外に必要な学習内容	◎ 実習前に検便の実施、オリエンテーションに出向く ◎ 後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける ◎ 研究発表会に向けての文章作成、PP作成は学校にPCがほぼ無い為、自宅での作業もあり得ます				
授業内容	① 介護実習に向けての心構え、準備を行う ② 自己の実習目標を持ち、実習に挑み、実践を通して課題を明確にすることができる ③ その人の人生、気持ちに寄り添った介護計画の立案・実施を行う				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第6章 実習Ⅱの展開	テキスト プリント
2	介護計画作成に向けて	PP プリント
3	介護計画作成に向けて	プリント
4	実習関連書類作成	プリント
5	介護計画作成に向けて オリエンテーションに向けて	プリント
6	第Ⅱ期前期実習 オリエンテーション	該当者
7	第Ⅱ期前期実習 オリエンテーション	該当者
8	実習関連書類の配布 最終確認	プリント
9	帰校日（演習）	プリント 実習関連物持参
10	帰校日	実習関連物持参
11	帰校日（演習）	プリント 実習関連物持参
12	帰校日	実習関連物持参
13	お礼状作成	プリント
14	介護計画のまとめ	プリント
15	介護計画のまとめ	プリント

授業内容

介護総合演習Ⅱ

16	介護計画のまとめ	プリント
17	介護計画のまとめ（発表）	プリント
18	国家試験受験に向けて	国家試験受験の手引き
19	実習関連書類作成	プリント
20	実習記録の振り返り	プリント
21	第Ⅱ期後期実習 オリエンテーション	該当者
22	第Ⅱ期後期実習 オリエンテーション	該当者
23	実習関連書類の配布 最終確認	プリント
24	帰校日（演習）	プリント 実習関連物持参
25	帰校日	実習関連物持参
26	帰校日（演習）	プリント 実習関連物持参
27	帰校日	実習関連物持参
28	お礼状作成	プリント
29	介護計画のまとめ（PC持参）	
30	介護計画のまとめ（PC持参）	

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	認知症の理解Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	田中 正廣	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	認知症の理解(中央法規)				
参考書	まとめ資料 VTR学習				
成績評価	テストとレポートを総合的に評価する(60%以上合格)				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	認知症の人と介護者としての私の関係ではなく、共に生きる関係をつくる				
留意点	地域との共生と多職種との連携を事例から学ぶ				
授業外に必要な学習内容	認知症サポーターやあいサポーター養成講座を受講し、実際に経験を通して学ぶ機会を増やす				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ①認知症に関する基礎的知識を習得する ②認知症のある人の困難な特性を理解する ③家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	VTR 実践的認知症ケア BPSDとバリデーション	VTR
2	認知症の人に見られる主な症状	P77~
3	いわゆるBPSDを考える	P82~
4	認知症に伴う日常生活面の変化	P91~
5	認知症の人への生活支援の実際	P119~
6	〃	
7	もうひとつの認知症ケア(1) 「認知症の人を知る」	
8	もうひとつの認知症ケア(2) 「必要なとき、必要なこと、必要なだけ」	
9	認知症の人のアセスメントと実際 「問題解決型と共感型ケア」	
10	連携と協働(地域におけるサポート体制)	
11	チームアプローチ	
12	家族支援	
13	定期試験	
14	認知症の人を看取る	
15	全体の振り返り	

<2019年度>

授 業 要 項

科 目	障害の理解Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	石坂 正明	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	新介護福祉士養成講座 13 障害の理解 (介護福祉士養成講座委員会：中央法規)				
参考書	障害の理解 (谷口敏代編集：メヂカルフレンド社)				
成績評価	前期の学期末試験を実施する。 学期末試験は多肢選択式とする。				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	障害に係る基礎知識の習得とともに、障害をもつ本人や家族の状況を理解し、障害者自立支援の具体的な事例を学び、効果的な介護をめざす。				
留意点	資料の配布、プロジェクターを使用する。				
授業外に必要な学習内容	実習等により障害者や高齢者と関わり、身体的な障害の理解を深める。 また、障害の種類でどのような心理的な影響があるか理解を深める。				
授業内容	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では「障害者の理解」「医学一般」と関連させ、原因となる疾患を理解し、障害の総合的な理解を図るよう配慮する。 障害をもつ当事者との関わりから、障害者の全体像、生活の実際、ノーマライゼーション等を実践的に学べるよう配慮する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	障害のある人の生活の理解3 内部障害のある人の生活を理解する。(前半)	プロジェクター
2	障害のある人の生活の理解3 内部障害のある人の生活を理解する。(後半)	プロジェクター
3	障害のある人の生活の理解3 難病のある人の生活を理解する。	プロジェクター
4	障害のある人に対する介護 障害のある人に対する介護の基本的視点を理解する。	プロジェクター
5	障害のある人に対する介護 基本的視点に基づいた個別支援を理解する。	プロジェクター
6	障害のある人に対する介護 社会資源の利用と開発について理解する。	プロジェクター
7	家族への支援 家族への支援とは何かについて理解する。	プロジェクター
8	家族への支援 家族の状態の把握と介護負担の軽減について理解する。	プロジェクター
9	連携と協働 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携について。	プロジェクター
10	連携と協働 地域におけるサポート体制について。	プロジェクター
11	事例研究 1	プロジェクター
12	事例研究 2	プロジェクター
13	事例研究 3	プロジェクター
14	事例研究 4	プロジェクター
15	定期試験	

<2019年度>

授業要項

科目	心と体のしくみⅢ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院
教科書	心と体のしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メディカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メディカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	食事・入浴・清潔保持に関連した利用者の状態変化とそれに伴う生活課題を論理的に理解する				
留意点	食事や入浴が心と体に及ぼす影響をこれまでの知識を織り交ぜながら確認する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	看護職員として病院勤務の経験を踏まえ、以下の内容を教授。 ①食事の重要性を理解する ②食事が心と体に影響することを理解する ③入浴の重要性を理解する ④入浴が心と体に影響することを理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第5章 食事に関連したしくみ 第1節 食事のしくみ なぜ食事をするのか 2 食事に関連した心のしくみ	第1 1 な 教科書・資料
2	3 食事に関連したからだのしくみ 習5-1 演習5-2	演 教科書・資料
3	4 代償的な栄養摂取法 食事の種類	5 教科書・資料
4	第2節 心身機能の低下が食事に及ぼす影響 1 精神機能の低下が食事に及ぼす影響 習5-3	演 教科書・資料
5	2 身体機能の低下が食事に及ぼす影響 習5-4	演 教科書・資料
6	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 食事での観察ポイント 食事での医療職との連携のポイント 演習5-6	1 2 食 教科書・資料
7	第6章 入浴・清潔保持に関連したしくみ 第1章 入浴・清潔保持のしくみ なぜ入浴・清潔保持を行うのか 入浴の歴史と基礎知識 浴・清潔保持に関連した心のしくみ	第1 1 な 2 入 教科書・資料
8	3 入浴・清潔保持に関連した体のしくみ	教科書・資料
9	第2節 心身機能の低下が入浴・清潔保持への影響 1 精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響(皮膚機能) 演習6-3	教科書・資料
10	2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 視覚機能、運動機能、高血圧や動脈硬化、心疾患・呼吸器疾患 その他	教科書・資料

授業内容

心と体のしくみⅢ

11	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 1 入浴が身体に及ぼす負担 2 入 浴・清潔保持での観察ポイント（温度変化まで）	教科書・資料
12	2入浴・清潔保持での観察ポイント（心身の状態～） 3 入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント 演習 6-6	教科書・資料
13	これまでの総まとめ	
14	定期試験	
15	テスト返却・回答	

<2019年度>

授業要項

科目	心と体のしくみIV	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院
教科書	心と体のしくみ(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	排泄・睡眠・ターミナルケアについて心と体のしくみとの関連性について理解し、根拠に基づいたケアができるようにする				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) 				
授業内容	看護職員として病院勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。 ①排泄・入浴におけるメカニズムを理解する ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する ④医療職との連携ポイントを知る ⑤人生の最終段階のケアについて理解する				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第7章 排泄に関連したしくみ 第1節 排泄のしくみ 1 なぜ排泄するのか 2・3 排泄に関連した心と体のしくみ(尿)	教科書・資料
2	3 排泄の関連した体のしくみ 排便～人工膀胱・肛門 ケアの実際(DVD) 演習7-1、7-2	教科書・資料
3	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1 精神・判断力の影響 2 身体機能の低下の影響 演習7-3、7-4	教科書・資料
4	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント	教科書・資料
5	第8章 休息・睡眠に関連したしくみ 第1節 睡眠のしくみ 1 なぜ睡眠するのか	教科書・資料
6	2 睡眠に関連した心のしくみ 3 睡眠に関連した体のしくみ 演習8-1、8-2	教科書・資料
7	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1 心身機能低下の影響 2 睡眠障害 演習8-3、8-4	教科書・資料
8	第3節 生活場面における心と体の変化の気づきと医療職との連携 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント	教科書・資料

授業内容

心と体のしくみⅣ

9	第9章 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 第1節 死の理解 死の捉え方～尊厳死～ターミナル期	教科書・資料
10	第2節 終末期から「死」までの変化と特徴 1 身体機能の特徴（終末期の変化の特徴）	教科書・資料
11	2 臨終期の対応 3 死後の体の変化 4 死後の連絡	教科書・資料
12	第3節 「死」に対する心の理解 「死」に対する心の変化～家族支援 演習 9-4, 9-5	教科書・資料
13	第4節 医療職との連携 呼吸困難～緩和ケア 試験前振り返り	教科書・資料
14	定期試験	
15	試験返却と解答 終末期ケアについてのまとめ	

<2019年度>

授業要項

科目	医療的ケアⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教員	畠山 仁美	領域	医療的ケア	実務経験	病院
教科書	医療的ケア(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護職が行う喀痰吸引等の医療的ケアの実施における社会的背景と合法化された経緯を理解し、個人の尊厳を基軸におき、安全な療養生活が維持できるように、知識・技術を身につける				
留意点	県の喀痰吸引研修用試験適応可能な模擬試験も実施				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●実技室での積極的演習 ●小テスト前の学習(復讐) 				
授業内容	<p>看護職員として病院勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①喀痰吸引・経管栄養の基本的な留意事項と技術を学ぶ(鼻腔・口腔・気管カニューレ、胃ろう・経鼻) ②医療的ケアにおける手順及び配慮すべきケアの実践を学ぶ ③喀痰吸引・経管栄養における記録とリスク管理と報告書の書き方を学ぶ ④救急蘇生について理解する ⑤評価に向けた実技演習を行い、手順の中にあるリスクへの配慮を理解する 				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	喀痰吸引について(医療的ケアⅠの振り返り) 痰吸引概論:呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態	教科書・資料
2	喀痰吸引について 工呼吸器使用者の喀痰吸引 カニューレ内部の吸引と留意事項	教科書・資料
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 子どもの喀痰吸引(対象者、留意点) 利用者・家族への対応	教科書・資料
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 喀痰吸引による危機管理(危険予知と対応)	教科書・資料
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 喀痰吸引時の備品の準備・環境整備(DVD)	教科書・資料
6	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 口腔内喀痰吸引	演習用具
7	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 鼻腔内喀痰吸引	演習用具
8	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 気管カニューレ内喀痰吸引	演習用具

授業内容

医療的ケアⅡ

9	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 口腔・鼻腔・気管カニューレ内喀痰吸引の記録作成・提出	●	教科書・資料
10	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 経管栄養とは P165～174	●	教科書・資料
11	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 子供の経管栄養について 養に関する感染予防	● ●栄	教科書・資料
12	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 家族への対応 全管理と対応	● ●安	教科書・資料
13	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 経管栄養での器具と管理方法	●	教科書・資料
14	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●必要物品準備と環境整備		教科書・資料
15	定期試験		
16	試験の返却 DVDによる経管栄養確認		教科書・資料
17	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻経管栄養		演習用具
18	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●胃瘻経管栄養		演習用具
19	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻or胃ろう経管栄養		演習用具
20	喀痰吸引・経管栄養演習		演習用具

<2019年度>

授業要項

科目	医療的ケアⅢ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	演習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	畠山仁美 清水きわ子 中村京子 大角洋子	領域	医療的ケア	実務経験	病院等
教科書	医療的ケア(中央法規)				
参考書	こころとからだの理解(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社)				
成績評価	5手技を各5回試験し、5回目がクリアできること。できない場合はできるまで試験を続ける				
評価基準	5手技を各5回以上実践(採点項目すべてを合格すること)				
到達目標	倫理性を持ち、理論に基づいた医療的行為が実践できること				
留意点	評価基準を同一のものとするための打合せを徹底する				
授業外に必要な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●積極的に計画的な実践練習 				
授業内容	<p>看護職員及び介護福祉士として現場勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安全に配慮した物品の準備と実践ができる ②手順に沿った実技ができる ③適切な報告と記録が書ける ④環境整備ができる 				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1～3	喀痰吸引(口腔内)	評価
4～6	喀痰吸引(鼻腔内)	評価
7～9	喀痰吸引(気管カニューレ内)	評価
10～12	経管栄養(胃ろう) 1	評価
13～15	経管栄養(経鼻) 1	評価